医療費について

日本の医療費は、一年間で三十兆円を越え、国民一人当たりにすると、二十五万円以上になっている。四人家族なら、年間百万円が医療費になる計算だ。

さらに、この医療費の半額以上を、国民の五分の一である六十五歳以上の方々が費やしているから、そのような方々が年間に使う医療費は、一人当たり六十万円ほどとなる。一月にすると五万円である。

さて、一月五万円を医療に支払っているという実感は、おありだろうか。五万円あれば、一日きっちり三食とっても、一食五百五十円になり、毎食大盛り牛丼が食べられる。ふた月貯めれば、地デジテレビも買える。それどころか、この金額があれば、毎年ヨーロッパにも行けるのである。

しかし実際には、毎月五万円を医療に支払ってはいない。健康保険のおかげで、一割、または三割の負担ですむから、一月五千円または一万五千円が財布から消えるだけである。毎食牛丼とはいかない金額である。

本当なら毎月五万円を支払わねばならない医療を、格安の料金で提供してくれるのが健康保険である。三割負担というのは、七割引のことだから、ものすごい安売りだ。保険を利用しておられる皆さんは、そのことにお気づきだろうか。スーパーマーケットが毎日七割引になったくらいの感動をお持ちだろうか。

次に、保険が支払う残り七割の金額のことはどうだろう。ちゃんと保険料を支払っているのだから、自分のお金で医療を受けていると思われているのではなかろうか。しかし実際は、今まで自分が納めてきた保険料が蓄えられているのではなく、今年皆から集められた保険料が使われるのである。したがって、健康保険が支払ってくれる医療費は、今年の自分の保険料を除いた分は他人のお金ということになる。

病気にもかかわらず、なのにきちんと保険料を納める人たちのお金で、格安の医療が受けられる。だから、すまんなあ、ありがたいなあ、と思いながら大切に使っていただきたいものである。

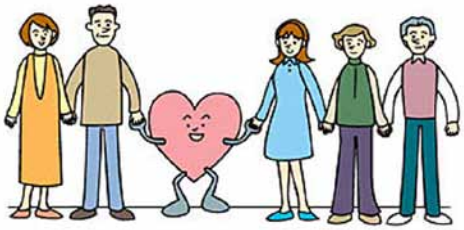
この実にありがたい健康保険のありがたみが感じられないのは、現金で支給されないからかもしれない。医療機関で、毎月、自分の財布から五万円を支払い、あとで保険から補充されるなら、かなりありがたく感じられるだろう。

また、医療の値段がわからないのも問題だ。誰だって、時価の大トロ握りの注文はためらうものだ。でも、お金持ちのパトロンが付いていたら、食べてしまう。しかし、一貫二千円なんて値札が付いていたら、どうだろう。パトロンにもちょっとは遠慮するだろう。

医療も同じだ。血液検査三千円、心電図千五百円、エコー五千五百円、点滴（薬代は別）九百五十円、胃カメラ一万二千円と値札があったら、たとえ全額は払わないにしても、お買い物感覚に戻って、あれもこれもと注文はしないだろう。パトロン（健康保険）の顔色だって、うかがうだろう。

本当に必要な医療なら、医療費を削るべきではない。しかし、不必要な医療費も相当あるのである。

不要な検査や薬を望むのは、他人の払った保険料の無駄遣いである。また、不要な検査や投薬を行う医療は、なんでも売りつけて儲けようとする悪徳商人と同じだ。

医療は今も昔も高額だ。時代劇では、親を医者に診せるため、娘が女郎屋に身売りするほどではないか。

今は健康保険のおかげで、そんな悲劇は起こらないけれど、そのくらいの覚悟で、医療を必要としていただきたいものだ。